



2016年度 コーディネーター・プロフィール

オルタナ編集長・森 摂 (もり・せつ)

東京外語大学卒業のち、日本経済新聞社に入社。編集局勤務となる。1998～2001年に同社ロサンゼルス支局長を務める。その後日経を独立し、2007年3月、環境とCSRと「志」のビジネス情報誌「オルタナ」を創刊。現在に至る。著書に2016年に『未来に選ばれる会社』(学芸出版社)など。

みなとCSRアイデアソン・主催者情報

■港区立エコプラザ

港区における環境に関する教育・学習・交流機会を提供する拠点として2008年に設立した。持続可能な行動の促進に寄与すべく、身近な環境および、地球規模の環境変化や保全について、関心を持って考える場を提供する。また、情報のハブとして、エコについての各種取り組みの情報発信なども行う。

<http://minato-ecoplaza.net/>

■みなと環境にやさしい事業者会議

minato eco-conscious consortium (略称mecc)

港区の事業者・港区民・港区が連携するため、業種や立場を超えて集まった組織。港区で環境・CSRに取り組んでいる企業や事業者で構成する。企業や各種団体の本部機能が集中する「港区」という特性を生かし、これまでにない環境保全活動の取り組みとして「みなとモデル」を全国に発信する。

<http://mecc-minato.net/>

■オルタナ

2007年創刊のソーシャル・イノベーション・マガジン。

環境やCSR、ソーシャル・ビジネスを中心に報道を続ける。A4変形フルカラー約80ページ、全国の書店で販売中。オンライン媒体でも配信する。このほか、専門講師のもと5か月間でCSRを網羅できるセミナー「CSR部員塾」や、[新]CSR検定も運営している。

<http://www.alterna.co.jp/>

若者とソーシャルを結ぶウェブメディア「オルタナS」も配信。

<http://alternas.jp/>

エコプラザ
問い合わせ先

〒105-0013 東京都港区浜松町1-13-1

TEL: 03-5404-7764 / FAX: 03-5404-7765

開館時間: 9:30-20:00 / 休館日: 毎月第4月曜日、年末年始



港区立エコプラザ



みなと環境にやさしい事業者会議
minato eco-conscious consortium

ソーシャル・イノベーション・マガジン!
alterna



<http://minato-ecoplaza.net/>

オルタナ × mecc × エコプラザ



みなと [CSR] アイデアソン

趣旨: 社会と企業の「協創」を活性化

企業と地域社会は、発展のために互いを必要とします。港区立エコプラザ、みなと環境にやさしい事業者会議 (mecc) とオルタナは、2014年度から三者協働で、「みなとCSRダイアログ」を開始。港区在住・在勤・在学の方を中心に、誰でも参加できる「対話」の場で、港区発の「新しいCSRの流れ」を育ててきました。2015年度からはこれを進化させ、CSRやソーシャルビジネス、環境・社会的な活動実現についてアイデア創出の場を展開しています。

奇数月の第3火曜日

18:00—20:00

第1部

活動事例プレゼン

(40分/毎回2事例)

港区で活躍する企業やNPO/NGOなどの活動事例をプレゼン形式で共有します。

第2部

CSRアイデアソン

(80分)

参加者で小グループを作り、アイデアソンを通して理解を深めます。

ファシリテーター: オルタナ編集長・森 摂

特別編

2016年4月7日(木) 16:00~17:40 (共催: 公益財団法人日本環境教育機構)

[トークセッション] 「協創力を磨き、社会や地域で生きる企業になる」

[トークセッション講師] 株式会社伊藤園 常務執行役員 CSR推進部長 笹谷 秀光氏
株式会社オルタナ 代表取締役 オルタナ編集長 森 摂

[今後の開催 予定と詳細]

第7回 2016年5月17日 第10回 2016年11月15日

第8回 2016年7月19日 第11回 2017年2月21日

第9回 2016年9月20日 ※第11回のみ偶数月に開催します

ところ: 港区立エコプラザ(東京都港区浜松町1-13-1/JR浜松町駅から徒歩4分)

主催: 港区立エコプラザ、みなと環境にやさしい事業者会議 (mecc)、株式会社オルタナ

コーディネーター: 森 摂(オルタナ編集長)

参加対象: 港区の事業者、港区在勤・在学・在住の方々を中心に、どなたでも参加いただけます

参加費: 無料

定員: 30名(申し込み先着順)

申込み・問い合わせ: 港区立エコプラザ(担当: 片平、水野)

[平成27年度]

みなと[CSR]アイデアソン 実施報告

社会と企業の「協創」を活性化

港区立エコプラザ、mecc、オルタナは、平成27年度「みなとCSRアイデアソン」を三者協働で実施しました。参加者は企業、NPOなど団体、港区民などで、環境やCSRに関する情報を交換し、理解を深めました。常連となった方も多く、全6回の開催で194人が参加。平成26年度の開始から累計374人が参加した交流会へと成長しました。



二部形式で開催 第一部：企業や団体による活動事例発表(毎回2事例)／第二部：参加者同士で各回のテーマに沿ったアイデアソン

theme 生 第1回・2015年5月19日(火)

- 株式会社東芝
工場だからこそできる生物多様性保全活動
- 公益財団法人
世界自然保護基金ジャパン(WWF)
ひとつの地球に暮らす70億人とたくさんの生き物たち

東芝は、工場の敷地内で生物多様性保全活動に取り組む。グローバル64拠点で実施することで、従業員の意識啓発やブランド価値向上に。WWFジャパンは、持続可能な社会につながる「地球1個分の暮らし」を歴史の変遷など踏まえて解説した。第2部では、教育の重要性を確認し、子どもを中心としながら世代を超えた仕組みづくりについて議論した。

アイデアソン どうすれば、日本にもっと生物多様性を広められるか

theme 人 第2回・2015年7月21日(火)

- 株式会社東京スター銀行
「人」を育てる環境ボランティア
- 国際青年環境NGO A SEED JAPAN
NGOにおける人材育成とは

東京スター銀行は、清掃活動など社員ボランティアを実施。最初の一步が肝心だとして、参加のハードルを下げる重要性を発表した。A SEED JAPANは、約180人の会員でプロジェクトを運営。ボランティアはモチベーションの維持が課題で、エンパワメントを意識する必要を訴えた。第2部ではポイント制度などモチベーション維持のアイデアが生まれた。

アイデアソン 企業・団体と地域でともに取り組んでいける人材育成とは

theme 輪 第3回・2015年9月15日(火)



トークセッション

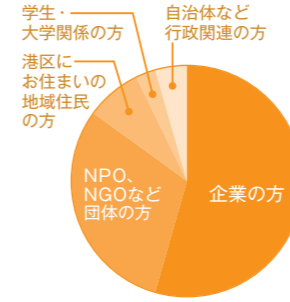
- 森 撰×CSR48
CSRを社内外に広めていくには

CSRに関心のある女子が集まった「CSR48」のメンバーが登場。企業CSR担当者を中心とした彼女らは、自社(リコージャパン(株)・グリーン(株)・前田建設工業(株))での取り組みや苦勞・やりがいなどをトークセッション形式で発表した。第2部では、CSRの社内浸透の手段を議論。キャッチコピーや表彰制度など、動機づけの手段が話し合われた。

アイデアソン CSRの社内浸透について、担当者になったつもりで考えてみる

平成27年度 みなとCSRアイデアソンに参加いただいた方々 (第1回～第6回までのいずれかに参加いただいた方)

企業の方:	85人
NPO、NGOなど団体の方:	48人
港区にお住まいの地域住民の方:	36人
学生・大学関係の方:	17人
自治体など行政関連の方:	8人
総計:	194人



コーディネーター：森 撰(オルタナ編集長)

theme 場 第4回・2015年11月17日(火)

- 伊藤忠商事株式会社
地域に根差す「伊藤忠青山アートスクエア」
- 株式会社コトラボ
アイデアソン「Park to the future」から
見えてきたこれからの公園

伊藤忠商事は2012年に、伊藤忠青山アートスクエアを開館し、障がいを持つアーティストの作品展などを開催する。地域との接点を深め、社会貢献活動につなげている。コトラボは、公園を身近にする検索アプリを開発。公園が抱える課題は日本の社会課題や解決策とも重複すると指摘した。第2部では、場を通したさまざまなコミュニティづくりが議論された。

アイデアソン 港区の公園の活用方法／伊藤忠青山アートスクエアの活用方法

theme 食 第5回・2016年1月19日(火)

- 東京ガス株式会社
環境に配慮した食の取り組み
- セカンドハーベスト・ジャパン
フードバンク活動とフードセーフティーネット

東京ガスは1995年から、エコ・クッキングを料理教室で実施。エネルギーロスの少ない調理方法を伝える。セカンドハーベスト・ジャパンは、経済的流通に乗らなくなった食品を集めて、貧困層など対象者に分配する団体。日本における食のセーフティーネットの脆弱性を指摘した。第2部では、流通システムの見直しやアプリを使った食品管理などのアイデアが生まれた。

アイデアソン 年間642万トンある食品ロスを半分に減らすアイデア

theme 熱 第6回・2016年3月15日(火)

- 東京工業大学
地球温暖化
- NPO法人日本水フォーラム
東京の気温を2℃下げる?!
市民による環境アクション、打ち水大作戦

東京工業大学は、科学的視点から地球温暖化を解説。省エネルギー型の暮らしを推奨した。日本水フォーラムは2003年から、「打ち水大作戦」への参加を呼びかける。社会実験として始まった取り組みで、活動を通して得た街づくりのヒントなどを紹介した。第2部では、人口の分散でヒートアイランド現象を解消させるアイデアなどが登場した。

アイデアソン 世界の平均気温3℃減のために、個人・企業としてどのように貢献できるか

【特別編】2015年6月4日(木)

●株式会社TBS 「みつばちあ」視察会



TBSテレビは2011年から赤坂のまちづくり組織と協力しTBSの屋上でミツバチを飼育する。生物多様性や環境教育などの観点から同社が社会貢献活動として行う「みつばちあ」を視察した。